

令和2年度岩手大学オープンキャンパス（教育学部）
英語サブコース説明会

みなさん、こんにちは。これから「英語サブコース」について説明します。

「英語サブコース」への入り口は、大きく分けると2つあります。一つは「中学校教育コースの中での英語サブコース」、そしてもう一つが「小学校教育コースの中での英語サブコース」です。では、それぞれについて簡潔にお話します。

「中学校教育コース・英語サブコース」については、受験のチャンスが2回あります。入試時期・区分・定員としては、1回目は11月に行われる「学校推薦型選抜」で定員は3名です。2回目は2月に行われる「一般選抜前期日程」で定員は5名です。

「中学校教育コース・英語サブコース」では、入学時に「英語サブコース」に所属し、1年次前期から英語サブコース専門科目の履修開始となります。カリキュラムは「中学校英語教員」をを目指す学生向けに組まれています。卒業要件、つまり卒業するのに必要な条件となる教員免許としては、主免が中学校英語一種、副免が小学校二種または中学校他教科二種となっています。

一方、「小学校教育コース」については、受験のチャンスが全部で3回あります。入試時期・区分・定員としては、1回目は11月に行われる「総合型選抜Ⅰ」で定員は小学校教育コース全体で35名です。2回目は2月に行われる「一般選抜前期日程」で定員は小学校教育コース全体で40名です。3回目は3月に行われる「一般選抜後期日程」で定員は小学校教育コース全体で10名です。

「小学校教育コース全体で 名」という言葉からもおわかりのように、「小学校教育コース」の場合、入学時つまり1年次4月時点ではまだ所属サブコースは決まっていません。入学後、希望するサブコースについて意思表示をしていただく機会があります。具体的には1年次の6月に「サブコース志望届」を提出することになります。

ところで、それぞれのサブコースには受け入れ上限数が決まっています。

「小学校教育コース・英語サブコース」の受け入れ上限数は14名です。

小学校教育コースで、「サブコース志望届」の提出後、英語サブコースへの希望者数が受け入れ上限数に達していないことが明らかになった場合には、志望届どおり英語サブコースに所属が内定ということになります。その一方で、英語サブコースへの希望者数が受け入れ上限数を越えた場合は、「選考・選抜」（試験

等)が行われることとなります。残念ながら選考にもれた学生は、第二希望以降の別のサブコースに志望を変更していただくこととなります。

小学校教育コースの中での英語サブコースに所属が決まった学生は、1年次後期から英語サブコース専門科目の履修開始となります。小学校教育コースですので、カリキュラムは「小学校教員」をみざす学生向けに組まれています。小学校教育コースの場合、卒業要件としては、主免が小学校一種、副免が中学校英語二種となっています。

ここまでのところをまとめると、以下のようになります。

英語サブコース

(1) 「中学校教育コース・英語サブコース」

「中学校英語教員」をみざす学生向けにカリキュラムが組まれている。

・入試について

学校推薦型選抜(11月[3名])、一般選抜前期日程(2月[5名])

・入学時：英語サブに所属し、1年次前期から英語専門科目の履修開始。

【卒業要件となる教員免許】

主免：中学校英語一種、副免：小学校二種または中学校他教科二種。

(2) 「小学校教育コース」

「小学校教員」をみざす学生向けにカリキュラムが組まれている。

・入試について

総合型選抜Ⅰ(11月[小学校教育コース全体で35名])、

一般選抜前期日程(2月[小学校教育コース全体で40名])

一般選抜後期日程(3月[小学校教育コース全体で10名])

・入学時：1年次4月時点ではまだサブコースは決まっていない。

・1年次6月：「サブコース志望届」提出。英語サブ受入上限数 = 14名

* 希望者数が受け入れ上限数を越えた場合は「選考・選抜」(試験等)を行う。選考にもれた学生は第二希望以降のサブコースに志望変更。

* 英語サブコース内定者は、1年次後期からの英語サブコース所属が確定。

・1年次後期から英語サブコース専門科目履修開始。

【卒業要件となる教員免許】

主免：小学校一種、副免：中学校英語二種。

では次に、「英語サブコースでどのようなことを学べるのか」ということについてお話しします。

英語サブコースでは、英語教育を一つの柱として、英語文学と英語学、そして異文化理解について、広く深く学ぶことができます。

英語サブコースの授業は、1年次では英語運用スキル（リスニング・スピーキング・リーディング・ライティング）を学ぶことに重点が置かれ、英語を母語とする教員によっておもに進められます。

2年次からは、英語教育・英語文学・異文化理解・英語学に関する専門科目の授業が始まります。このうち、2年次では基本的には「講義」を通してそれぞれの分野について基礎的なことを広く学びます。

3年次では「演習」を通してさらに発展した内容について深く学ぶこととなります。3年次後期からは、卒業研究を視野に入れて、英語教育・英語文学・異文化理解・英語学の中から特に追究してみたいと思う分野を一つ選んで、研究室に所属し、指導教員のもとで研究を進めていきます。

卒業論文は英語サブコースの学生にはすべて英語で書くことが求められています。

それぞれの学年の授業科目を一部抜粋すると以下ようになります。なお、先ほどお話ししたように、中学校教育コースと小学校教育コースでは英語サブコースに所属する時期が異なりますので、一部の科目ではコースによって履修時期が異なります。

1年次：【中のみ】前期：英語表現特別演習(W)Ⅰ、英語の文法

後期：英語表現特別演習(W)Ⅱ、

【小のみ】後期：英語表現特別演習(W)Ⅰ、「小学校の英語」

【共通】後期：英語表現特別演習(S)Ⅰ、英語音声学講義

2年次：【小のみ】前期：英語の文法

後期：英語表現特別演習(W)Ⅱ、

【小・中で共通(かつ抜粋)】

英語科教育法Ⅰ,Ⅱ、英語科教育法(小)、異文化理解
英語学の世界、英語音声学特別演習、

英語表現特別演習(S)II、英語文学概論

3年次：英語科教育法 III, IV、英語科教育法特別演習 I, II

英語学特別演習

英語文学特別演習 I, II、

* 英語表現特別研究 A（後期）

4年次：* 英語表現特別研究 B（前期）C（後期）

以上が、英語サブコースについての説明となります。ここまで資料をお読み下さり、ありがとうございました。